

第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

熊本市立天明中学校 校長 榎木敏之

1. 単元名 天明地域の素晴らしさを「見とこ・知とこ」プロジェクト〈自然環境編〉
～天明のよりよい未来のために、わたしたちができることを考えよう～

2. 単元の目標

- 世界の中に様々な環境問題があること、その解決に向けて様々な機関が取り組んでいることなどを理解するとともに、環境問題に関する情報を収集することができる。 (知識及び技能)
- 環境問題に関して収集した情報をもとに課題を見だし、環境を守るために解決策を考えたり、考えたことをまとめたり、他者に伝えたりすることができる。 (思考力・判断力・表現力)
- よりよい環境をつくるという目的意識をもち、環境問題を自分事としてとらえ、自分たちにできることを考えたり、下級生や地域の方に伝えたりしようとするすることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本教材は、環境という側面から持続可能な社会の創造を目指す資質・能力の育成を図ることができるよさがある。現在、地球規模では温暖化をはじめとする環境問題が深刻な問題となっており、その深刻な問題を解決するために世界中ではもちろん、天明地域でも様々な取組が行われている。国連の定めたSDGsの17の目標についても生徒は少なからず目にして知っていて、自分の生活も少しずつ影響を受けていることも感じている。ただ、まだまだ自分とは遠いところにある問題であり、なんとかしなければならないという強い思いを抱くまでには至っていない。しかし、深刻さを増す環境問題は一人一人の意識が変わり、行動が変わることが大切である。生徒にとってここでの学習が意識や考えを変え、行動を始める一つの機会になってほしいと思っている。また、自分たちが未来の社会や地域を創る存在だということに改めて気づき、自身の生き方を考えてほしいと思っている。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、小学校時に「稲作体験(田植え、稲刈り、餅つき等)」「潮干狩り」「開門体験活動」等の天明地域の自然や環境に関する学習を総合的な学習の時間に取り組んできており、天明地域の環境問題に関心を持っている生徒は多い。また、地域のボランティア活動に自主的に参加を希望する生徒は常に半数近くおり、地域に貢献することへの意識は高い。ただ、環境問題について漠然と知ってはいるものの、解決するために具体的にどのようなことをしていけばよいのか、世界の問題のために自分たちにできることは何か、などということにはまだ考えが至っていない生徒がほとんどである。今回の学習で、SDGsと関連させながら問題解決型授業を進め、児童自身が自分の力で考えながら問題を解決し、行動化にまでつなげていけるように進めることは、生徒の実態と既習事項との関連から見ても適切だと考えている。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、天明地域の身近な環境とSDGsの11～15の目標と関連させることで、環境という側面から持続可能な社会の創造を目指す資質・能力の育成を目指していく。

単元の導入では、生徒が環境問題を自分事として考えられるように、現在起きている天明地域の環境問題や地域で現在取り組んでいる「ホテル復活を目指す活動」「炭焼き体験」「森づくり体験」などの活動を共通体験として提示する。そして単元を貫く大きな学習課題を設定できるようにする。その上で生徒が身の回りの環境問題について想起し、自分の課題を設定して調べ活動をして、調べたことをクラ

スの中で発表するという活動を行う。互いに発表し、対話的な学習を展開する中で、新たな気付きや疑問が出てくることが予想される。さらに調べたことを整理・分析して、環境問題を解決していくために必要なことを明らかにしていく。そして天明地域だけでなく、日本全体や世界にも目を向けて、環境問題を解決するための様々な取組について調べていく。そこでは、天明まちづくりや熊本市役所のSDGs担当課の方などにも協力していただきながら現在も様々な取組が行われていることを知ることができるようにする。

最後に、学習課題として自分にできることを考え実践していく。自分にできることを考え、実践していくことを通して、環境問題が自分たちの生活と関わっていて、行動することが世界や地域で起きている環境問題を解決するために大切なことであることを捉えさせていく。そして、行動したことについて発表し、検証しながらこれからの自身の生き方を考えることまでをこの単元のゴールとしたい。

(4) ESDとの関連

① 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

- II 相互性…環境問題は様々なことが関わり合っていて起きていることやいろいろなところでその問題が関わり合っていることを理解すること
- V 連携性…環境問題を解決するために様々な人々が協力・連携して取り組んでいることを知り、自身でも社会や地域の一員として協力・連携して行動していこうとする思いを抱くこと
- VI 責任性…多くの企業や団体が「つくる責任」のもと、環境を守るための取組を行っていることを知り、「つかう責任」のもと自分たちにも環境を守るために行動しなくてはならない責任があることを自覚すること

② 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

1 批判的に考える力

- ・環境問題の影響・原因・対策等について調べ、様々な情報を整理・分析して、環境問題の本質について理解し、その対策について思慮深く考えることができる力

3 多面的・総合的に考える力

- ・様々な人の立場から環境問題を見てみることで、環境問題には多様な面があることを理解する力
- ・環境問題の原因等のつながりを見付けることを通して環境問題の全体像を総合的に捉える力

4 コミュニケーションを行う力

- ・グループの中で環境問題についての自分の考えや思いを伝え、友達の考えも尊重し、積極的にコミュニケーションをとりながら、その解決方法をまとめることができる力

7 進んで参加する態度

- ・地域社会の一員としての責任を自覚し、環境問題を解決するための方法を考えようとする態度
- ・グループの中で自分の役割を理解して主体的に話し合いに参加する態度

③ 本学習で変容を促す ESD の価値観

(1) 世代間の公正を意識できる

現在だけでなく、将来に渡って天明地域の自然環境を豊かにするためのまちづくりが大切である。

(3) 自然環境、生態系の保全を重視する〈生物多様性の重視〉

天明地域の人々がこれまで取り組んできた「森づくり」「水質改善」等の活動を継続・発展させることで、現在の豊かな自然環境を維持することができるとともに、天明地域の農業・漁業等の産業をさらに発展させることができる。

(5) 幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

自分たちの世代だけが幸せであることが、将来的にも幸せであるとは限らない。また、今ある天明地域の自然環境は自然にできたわけではなく、先人の努力の上で出来上がってきたものであることに感謝し、その意識を引き継いでいくことが大切である。

④ 達成が期待される SDGs

- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 2 つくる責任 つかう責任
- 1 3 気候変動に具体的な取組を
- 1 4 海の豊かさを守ろう
- 1 5 陸の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 天明地域には地理的な環境課題があることや、その課題解決に向けて地域の人々が様々な思いや願いをもって生活していることを理解している。 ② 情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。	① 天明地域の将来の自然環境への自分の思いを踏まえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しを持って追究している。 ② 活動の過程や結果、成果などをふさわしい方法を選びながら分かりやすく整理して表現している。	① 積極的に地域に関わることで関心を深め、つながりを意識して地域のために行動(生活)しようとしている。 ② 自分の学びを振り返り、評価・改善しながら課題解決に向けて取り組んでいる。

5. 単元の指導計画(全20時間)

学習活動	学習への支援	評価・備考
1～2 天明地域の環境の実態を知り、問題意識をもつとともに、今後の活動の見通しをつかむ。	○天明水の会の方を講師として、天明地域の環境に関する現状および現在取り組まれている環境保全活動等を説明してもらい、生徒が身近な環境問題を改めて考える機会を設定する。例えば、「ホテル復活の取組」のような天明地域独自の取組を紹介してもらい、その目的とともに天明地域の環境の実態について伝えてもらう。 ○また、日本だけでなく、世界的に環境問題への取組の必要性が近年高まっていることを伝え、学習の必要性を伝えていく。	ア① 【知・技】
3～4 環境問題について調べたいことを決めて、学習計画を立てる。	○ウェビングマップを使って、知っている環境問題を出し合い、つなげていくことで、様々な環境問題があることを再認識させる。 ○まちづくりの職員の方を講師として、熊本市の環境に関するデータや現在の取組の課題等を説明してもらい、環境問題の現状を理解させるとともに、生徒の学習計画づくりを支援する。	イ① 【思・判・表】 ウ① 【主体的】

<p>5～12 環境問題について調べる。</p>	<p>○熊本市政策企画課（ESD 担当課）及び水保全課の職員を講師として、世界の中での環境問題の現状やその対策、熊本市の水に関する現状、熊本市の取組の方向性等について説明してもらい、生徒の問題意識が高まるようにする。</p> <p>○また、九州ESDセンターの方を講師として、企業等の取組についても説明してもらい、生徒の理解がさらに深まるようにするとともに、生徒の学習計画の修正等の支援も行う。</p> <p>○講師の講話に加えて、本や資料、インタビューを活用し、現在の状況と問題点、原因について調べる活動の時間を確保する。</p> <p>○天明地域の水環境について、川や用水路等を実際に調査して現状を把握する。</p>	<p>ア② 【知・技】 イ①② 【思・判・表】</p>
<p>13～16 環境問題について調べたことをまとめる。</p>	<p>○これまでの学習で学んだことを話し合いながら整理させ、自分が選択した環境問題についての現状、原因、対策、自分たちができることを含めたプレゼン資料の作成を支援する。</p> <p>○問題を解決するために自分がやりたい行動を決めさせ、行動計画づくりを支援する。</p>	<p>イ①② 【思・判・表】 ウ①② 【主体的】</p>
<p>17～18 調べたことを友達に分かりやすく伝える。</p>	<p>○調べた内容が違うメンバーでグループをつくり、調べたことを発表する機会を設定する。</p> <p>○タブレットを使って他グループの友だちのプレゼン資料も見られるようにすることで、クラスの中で上がった環境問題の現状と原因について共有できるようにする。</p>	<p>イ①② 【思・判・表】 ウ①② 【主体的】</p>
<p>19～20 これまで調べてきたことをもとに、新たな課題を設定する。</p>	<p>○これまでの活動を通してまとめたことを報告し、討論することを通して、「わたしたちの環境を守ること」について視野を広げ、改めて自分が今できることを考えることができるよう支援する。</p>	<p>ウ①② 【主体的】</p>